



善正寺だより

掲示板法話

逃げたらあかん 如来様が一緒に

人生の重荷を背負ってくれる

今年も早いもので、師走を迎えました。歳を重ねることに時の流れが速くなるような錯覚を覚えます。

今年父の二十三回忌、母の二十七回忌を勤めさせて頂きました。二人とも命日が十二月(父・十六日、母・二十二日)ですので、この時期になると往時のあれこれ思い出されます。

父は愛知県岡崎市の寺に生まれ、男三人、女四人の次男坊でした。幼い頃から和歌山県田辺市の母親の在所で養育されましたが、旧制中学校の頃、そこに跡を継ぐ男の子が生まれたため、四日市の善正寺に養子として入寺したのです。父が入る前に、四人もの方々が養子として迎えられながらうまく定着できなかつたそうですから、その後の父の人生が平坦ではなかつたことが想像できるでしょう。入寺後、かなりの歳月が経った頃、実家の兄が亡くなり、その後弟まで亡くなつてしまいましたので、実家の方から「こちらへ戻ってくれないか?」という話しが持ち上がりました。この両親からの要請に対して父は決然と「ここから逃げるわけにいかん。わたしは(善正寺の)如来様と(門徒の)皆さ

んに対して(無責任なことではきん!)とお断りしたのでした。後年、この思い出話を私に聞かせるたびに、「人生何事も逃げたらあかん!如来さまと一緒に人生の荷物(苦悩)を背負ってくれるのだ」と言つのが常でありました。「人生は苦なり」というお釈迦様のメッセージを受けたこの言葉は、私にとつてずしりと重い言葉になりました。

先日、奈良県へ出講の折、ある悩み事相談を受けました。話は深刻な親子の葛藤であり、「こんな自分が自分でも嫌になります」とまで言い放つほどでした。十分ほどの休憩時間が過ぎて、出番が迫ってきました。「もつとお話を聞かせて頂きたいのは山々ですが、ごめんなさい。人生の重荷を丸ごと誰かに代わってもらふことはできませんが、心の窓を開いてちよつと軽くすることはできます。あなたや娘さんのことを捨てておけぬと泣いて下さる仏様がいらつしやいます。あなたの方の息苦しい間柄に間をとる空間的間合いと辛抱強く待つという時間的間合い、そして冷静になれる人と人の間合い、3つの間合いを見事に取つてくださるのが仏の智慧です。こんな

〒:512-0902
三重県四日市市
小杉町1014
浄土真宗
本願寺派
善正寺
TEL:0593-31-1670
FAX:0593-32-0733

☆行事ご案内☆

『お内仏報恩講』

12月1日(土)夜7時半 庫裏にて

音楽法要など、ぜんざい、お酒、粗食を用意します

ご家族おそろいでお参り下さい。

◇キッズサンガ

12月31日夜11時45分「除夜の鐘」

1月1日午前9時「元旦会」本堂で正信偈、お年玉菓子付

お友達も誘ってきて下さい。夕方5時の鐘撞きは誰でもOK当たりガム付。年中無休

☆秋勸進 11月23日(金、祝日)午前8時より 御礼

行事さんが来年度カレンダー、年回表、寺報を持って巡回。皆様のご協力ありがとうございました

善正寺ホームページ「三重 善正寺」で検索。

「住職と坊守のつれづれ日記」が好評。開設4年4ヶ月で9万1千訪問突破、一日平均100ほど、悩み相談もOK。

【一縁会テレホン法話】 059・354・1454へお電話を!

5人の僧侶が週替わりで担当、3分間で法話が聞けます。
【年末年始予定】

除夜の鐘 大晦日 夜11時45分より

元旦会 朝9時より 本堂で正信偈

お朝事 1月13日から16日まで 正信偈、法話、茶話会

写真ニュース
報恩講、門徒展



お話を後半の席でさせて頂きますので、どうかヒントにして下さい」と申し上げ、お引取り頂きました。

休憩後演壇に立つと、その方が最前列でじつと聴聞される姿が目にとまりました。簡単に解決できるとは思えませんが、一身をかけて聴聞してくださいるならば、苦悩から逃げずに受け止めて生きる智慧が恵まれます。逃げず、ごまかさず、引き受けて往ける人生こそ、「生きてきてよかった」と見直す道が開かれるのではないのでしょうか。



坊守スケッチ

青い鳥症候群



先日インターネットで知ったという若い女性の悩み相談を受けた。2時間ほどひたすら聞かせて頂いた。最初は深刻な顔つきだったが、帰り際には笑顔に戻った。私からの明確な解答はないが、少しは心の重荷が下りたかしらと一人合点した。しかし翌日その女性から再び電話がかかった。自宅に帰ったらやはりつらい現実に直面して、やりきれない気持ちになった。「私は死んだほうがいいのでは?」という悲痛な声に、すぐに電話を切るわけにはいかず、再び1時間以上の長電話となった。相談者の倍以上生きている私には、どうしてこれが悩みなのと思える事でも、当事者は深刻な問題。恵まれた環境で、甘やかされて育った世代の人には、自分の思い通りにならないと、挫折として感じる。自分の思いを通そうとして周囲の迷惑も顧みず、無理を通す。その結果、予想もしなかった弊害が生じ、悩みのトンネルから抜けきらない。彼女の幸せの基準は、いつも他人と比較したもの。「あなたは今ままで十分幸せじゃない?」上を見たら限がないよ」と言う。「それではダメなの。条件が揃わなければ。」と。そもそも彼女の悩みは、結婚後アパートの1階に住んだら2階の音がうるさい。古い一軒家に引っ越したらムカデが出る。新築マンションの最上階に移つ

たら隣の人が気に入らない。妊娠中3度も引っ越したので、ストレスで未熟児が誕生。こんな筈じゃなかった、子供に申し訳ないと後悔し泣いてばかり。ついにうつ病になって医者通い。自分の描いた理想とは程遠い現実に幻滅した。昼夜逆転の生活をし、家事もままならず、しわ寄せが家族にまで及ぶという。彼女の話を聞く中で、私はメーテルリンクの『青い鳥』という小説が思い浮かんだ。チルチルとミチルの兄妹は、幸せの青い鳥を探し求めて、森の中をさまよう。結局どこへ行ってもその鳥は見つからず、家の中の古い鳥かごにいたハトが、青い鳥であったと気付く物語。人間とは複雑怪奇なもので、幸せをつかんだ瞬間、それがつまらないものになってしまう。青い鳥を探し求める。こんな筈じゃなかったと、実際手にした青い鳥の欠陥ばかり目に付いて後悔と愚痴の繰り返し。今恵まれていることに喜びを感じなければ、一体いつになったら幸せを感じるのか? いつまでも青い鳥を探し求める『青い鳥症候群』から抜け出る、唯一の方法は、自分に与えられた環境が、自分に一番ふさわしい、ちょうど良いと思うこと。つまり感謝する心を持つことだ。一概に感謝の心を持つと言われてもどうすればよいのか? 先ず今日一日出会った人々に「ありがとう」の言葉を添

えよう。あなたが変われば、周囲も変わり、接する態度も優しくなる。「人生は決して自分の思い通りにはならない。執着は苦の元」と腹にすえて柔軟に逞しく生きよう。

★寄稿

四日市市川崎孝一

- ☆庫裏の守り 三十余年の御庫裏様 調理卓越 栗飯美味し
- ☆悦に入る 食材歌材「くり」の2字 折り込み歌う 秋の関白
- ☆路地で逢う 健やか亮ちゃん 小春日の ベビーカーから アンヨが覗く
- ☆春は花 秋に紅葉 築山の 二季を彩る 満天星

四日市 釈妙水

- ☆大根汁 味噌染み込んで 報恩講
- ☆秋日和 精進料理 合掌する
- ☆楽しみは 庭木刈る後美味のお茶
- ☆寄り添って 頬触れ合うや 秋桜
- ☆坂道を 金木犀の香 転げ来る

平成24年度残りと年末年始の行事

- ◇「秋勧進」11月23日午前8時より
- ◇「お内仏報恩講」12月1日(土)夜7時半より、家族揃ってお参り下さい。
- ◇除夜の鐘 大晦日夜11時45分
- ◇元日会 朝9時本堂で正信偈
- ◇1月13日から16日の朝7時より「お朝事」本堂で正信偈・法話・茶話会

お悔やみ申し上げます

★稲垣明機(11月7日)・88歳・小杉1丁目(合掌)

☆カンパ有難う☆

結城ミハル様・小林ふきえ様・正親市子様・高橋智恵子様・山中ツヤ子様・栗本洋子様・森ふさ様・藤田悦子様・他匿名様、切手や御志ありがとうございます!

【善正寺今年の思い出ニュースあれこれ】

- ①3月13日初孫亮爾誕生、
- ②4月21日9名の赤ちゃん初参式
- ③6月23日「フック」で誕生祝賀会
- ④2月報恩講を年2回勤める。
- ⑤1月11日12日最後の冬の報恩講
- ⑥1月2日3日初めての秋の報恩講。今後11月に報恩講が移る。
- ⑦3月百五銀行阿倉川支店で第2回善正寺門徒展。報恩講でも本堂に作品展示
- ⑧4月長男潤爾の初著書『読んで旅する』「ロップ」(三学出版)出版、日本図書館協会認定図書に。

☆ホットニュース☆

☆12月1日(土)夜7時半「お内仏報恩講」庫裏で音楽法要他、ぜんざい、酒・粗食用意、忘年会も兼ねています

☆善正寺のホームページ「三重 善正寺」で検索可。毎日更新の「住職と坊守のつれづれ日記」が好評。開設4年4カ月で9万1千訪問。毎日平均100訪問。悩み相談メール、コメント大歓迎。

☆編集子より☆

「善正寺だより」228号をお届けします。閉塞感漂う師走。今号は奇しくも両面とも悩み事相談が並んだ。内実は多様だが、どう心の窓を開けて頂けるのか? 仏教徒の本領が問われている。◇「愛読深謝、来年もどうぞよろしく、

師走を迎えお忙しい毎日をお過ごしのことと存じます。

今年の我が家の重大ニュースは初孫亮爾の誕生です。毎日が驚きと発見の連続です。赤ん坊の成長の速さ、家庭環境の大切さ等、子育てを応援する中で、孫から気付かされる事が沢山あります。わが息子が先代住職に育てられたように、私達も孫にどんな思い出を残せるか、いろいろ気を配っています。先日の報恩講で大畠先生から「禅僧が米国人に教えた三つの英語」のお話が心に残りました。五木寛之氏の著書にも紹介されています。仏教の教えを簡単な英語三つで表すと「サンキュウ」「アイムソリー」「アイラブユウ」。日本語で言えば「ありがとう」「ごめんなさい」「あなたに大事」。これなら誰でもすぐに覚えられます。親鸞聖人が「南無阿彌陀仏」一つで救われると言われ、広く一般民衆に浄土真宗が広まった所似もここにありません。本堂で孫とお勤めすると念仏の部分で「アーアー」と声を合わせてます。文字も読めない幼児にも伝わるものがあるのでしょうか？三つの英語もキリスト教に集う子供達に広めようと思っております。お念仏は仏壇の前だけで唱えるものではなく、日常生活の場で実践してこそ身に付きます。私も毎朝の散歩時に仏教讃歌を歌います。人生の応援歌の如く足が前に進みます。皆様も一度お試しください。十二月一日(土)夜は庫裡でお内仏報恩講。ぜひいや粗食を用意しますのでお誘い合せてお参り下さい。

平成二十四年十二月 合掌 善正寺坊守拝